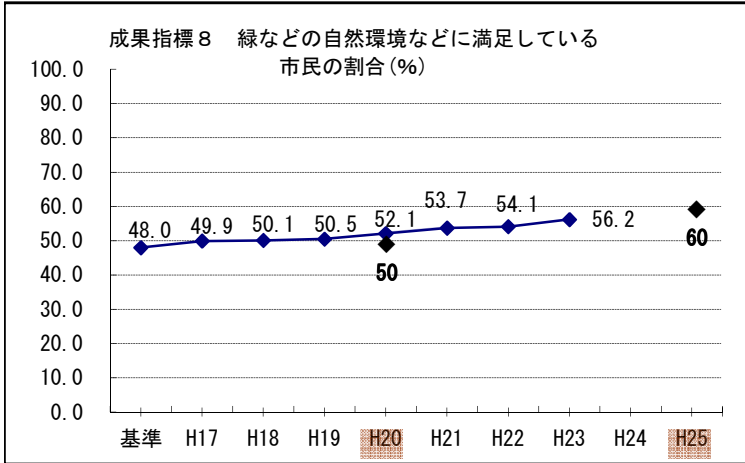


柱	2 生活環境
分野	E 自然
ビジョン	次世代につなげる生命（いのち）ある自然環境の保全

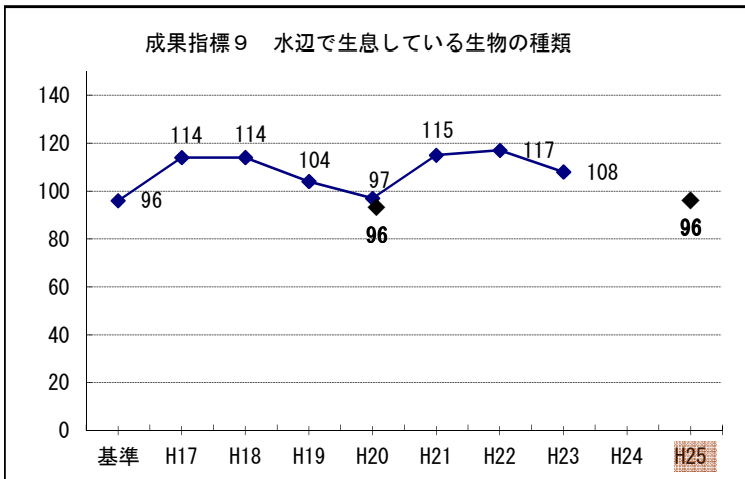


**主な事業**  
 保全地区・保存樹木の指定  
 松くい虫防除事業

**計画通りに成果が上がっているか**

目標達成  
 順調  
 順調でない

**成果指標の分析**  
 緑などの自然環境に満足している市民の割合は、23年度の目標値56%を達成しており、順調良く行けば25年度の目標値に近づくことが出来る状況にある。また年齢別では、20～49歳は順調良く目標値を達成しているが50歳以上と16～19歳で目標値が達成されていない。職業別では会社員・公務員、自営業、学生が目標値を達成していない。学区別では目標値を超えているところと、超えていない学区がほぼ半々である。また、男女別では男性の方が低い値となっている。



**主な事業**  
 河川ため池水質浄化事業  
 東海市エコスクール

**計画通りに成果が上がっているか**

目標達成  
 順調  
 順調でない

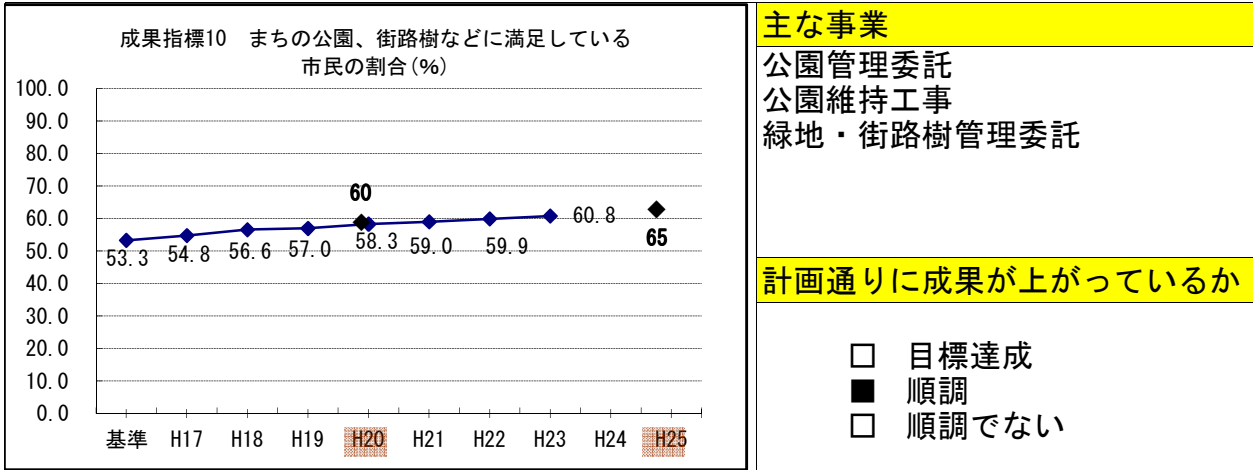
**成果指標の分析**  
 22年度より9種類減少している。鳥類・魚類・水生昆虫・水生植物には22年度と比べて大きな差はないが、水生生物が減少したためである。

成果が向上する余地（可能性）は？  大  中  小

**成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針**

緑の基本計画に基づき加木屋緑地等の整備・保全を進めるほか、保全・保存樹木未登録者の登録推奨、緑の保全のための調査研究を実施していく必要がある。水辺で生息している生物の種類は、下水道の整備進めるとともに、河川でのエコスクールを開催することにより河川環境に対する啓発や意識向上を行っていく。

柱	2 生活環境
分野	F 公園・緑地・景観
ビジョン	花と緑あふれる心安らぐまちづくり



**成果指標の分析**

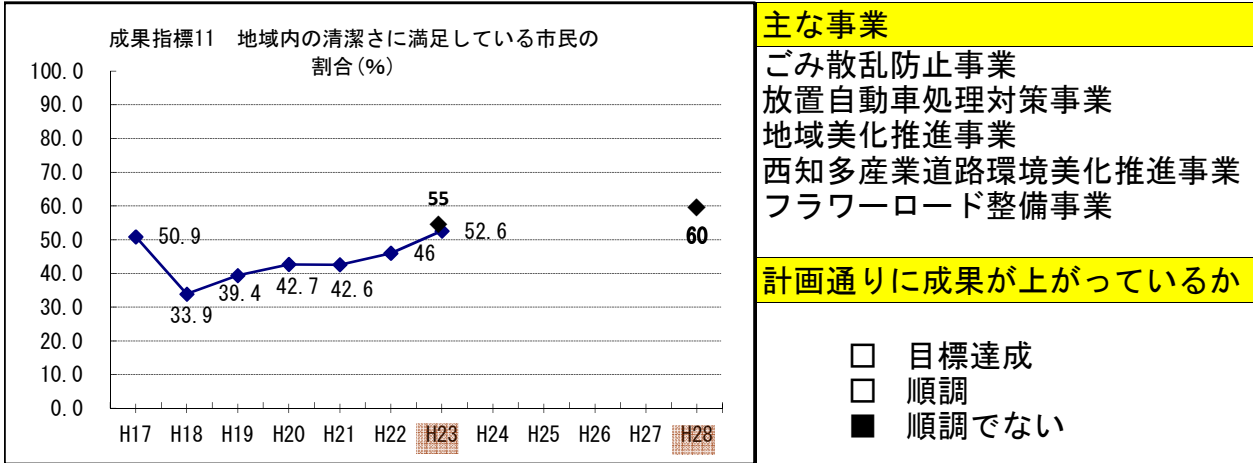
満足度は、僅かではあるが年々増加傾向にあるものの、目標値には達していない。年齢別ではすべての年代で目標値を下回っており、16～19歳については急激な減少傾向にある。職業別では、会社員・公務員、自営業、学生が低く他は目標値を達成しつつある。男女別では男性より女性の方が5%程度高い数値になっている。男女共同感覚で公園等を利用して満足度を高めているものと思われる。

成果が向上する余地（可能性）は？  大  中  小

**成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針**

引き続き、公園や環境保全林の整備を進めるとともに、宅地開発業者等に緑地の保全・確保に努めてもらう。また、公園整備においては、地域住民の意見を反映したワークショップ方式での公園づくりを進めていく。

柱	2 生活環境
分野	G 環境美化
ビジョン	道路も公園も自分の庭 めざそうポイ捨てゼロのまち



**成果指標の分析**

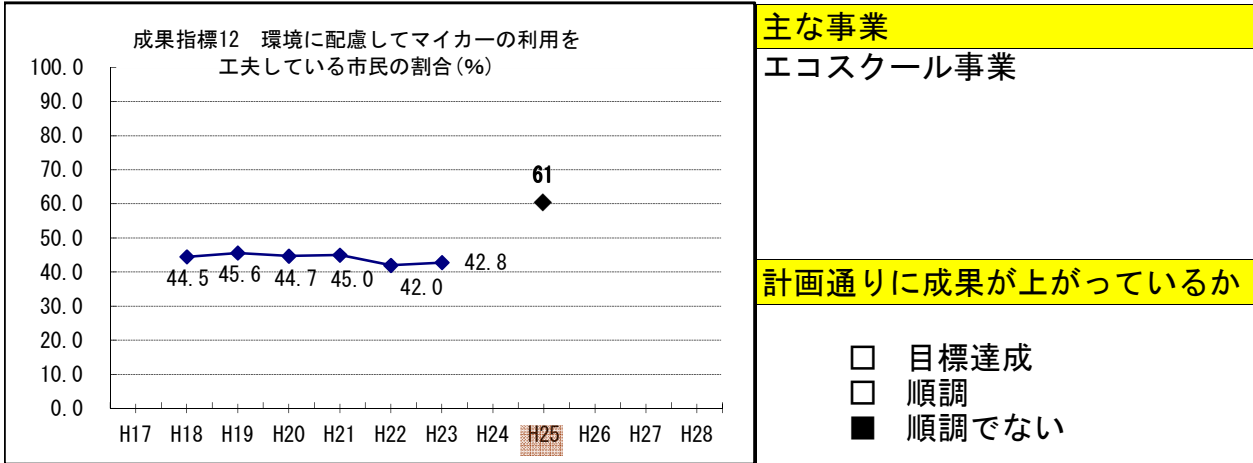
22年度に比べ6.6%も上昇した。市内幹線道路におけるごみの回収量も減少傾向にあり、ポイ捨て自体も減少していると推測される。

**成果が向上する余地（可能性）は？**       大     中     小

**成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針**

24年度以降は、指標が「地域でもゴミのポイ捨てが目立つと感じる市民の割合」と変更となる。これは現状の指標は設問が抽象的であること、ビジョンである「道路も公園も自分の庭 目指そうポイ捨てゼロのまち」に沿った指標の方が現状を正確に把握できるためである。今後は新しい指標の数値向上のために、事業を実施していく必要がある。

柱	2 生活環境
分野	H 交通
ビジョン	環境に配慮した安心便利な交通システムの整備



**成果指標の分析**  
 指標値は0.8%向上したが、ほぼ横ばいといえる。工夫の内容としては、徒歩や自転車を利用してマイカーの使用を控えている人の割合が52.9%、アイドリングストップをしている人の割合が30.6%などとなっている。

成果が向上する余地（可能性）は？  大  中  小

**成果向上のためにすべきこと、次年度への取り組み方針**  
 指標値の改善には、市民、企業の環境保全に配慮した活動を促進ためのエコスクール事業や啓発事業等の内容を見直し、充実させることにより成果向上する余地がある。また、市内一斉清掃日等の市民参加を増やし、環境への関心を高める。